

令和4年度“超”を目指す軸受技術研究会報告

“超”を目指す軸受技術研究会（会員提案，2022年度，主査 平山朋子）：本研究会は，軸受技術の基礎研究や応用・開発に携わっている者，気軽になんとか参加してみたい者が集っているいろいろな意味での“超”を議論し，情報を交換する場として運営されている．本年度の委員数は10名で，京都市内施設を開催場所とし，2回の研究会を開催した．研究会での講演タイトルは以下のとおりである．

第63回研究会（令和4年10月1日 於：京都大学楽友会館）①Numerical investigation on the effect of textured surfaces in starvation conditions（九州大学 張科，八木和行），②放射光と分子シミュレーションによる油中の逆ミセルの配向過程解析（日本精工（株）／兵庫県立大 野田隆史，兵庫県立大 長谷川智也，鷺津仁志），③将来宇宙輸送システム株式会社の紹介および液体ロケットエンジン用電動ポンプの極低温すべり軸受（将来宇宙輸送システム（株）／千葉工業大学 庄山直芳）．

第64回研究会（令和4年12月17日 於：KKR 京都くに荘）①摩擦発電機の開発とその応用（関西大学 谷弘詞），②機能性トライボロジー ～表面・材料・評価について～（産業技術総合研究所 是永敦），③宇宙開発の鍵となる月・火星レゴリス粒子のハンドリング技術（京都大学 安達眞聡）．

研究会終了後には，話題提供者を囲んで簡単な懇親会を設けることが慣例となっており，毎度，ざくばらんな意見交換がなされている．次年度も軸受技術に関わる話題を基とし，年2～3回の研究会の開催を予定している．

URL: <https://www.maizuru-ct.ac.jp/control/noma/trib/tribology.html>